

♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2017年4月 ♪

チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

こんにちは！新年度のはじまり、4月。今月は2日の宗次エンジェルヴァイオリンコンクール本選に始まり、(既にチケットは完売してしまいました！)全30公演！その他にも4月3日には翌日のランチ出演者様による『おしゃべり交流会』を、そして8日(土)には今後開催するコンサートについて知ることができる『コンサート選びのヒント講座』、そして14日(金)には、宗次ホール流のこだわりを知って頂ける『宗次ホール おもてなし講座』を開催致します！交流会と講座については、いずれも参加無料ですので、気になるものがありましたらどうぞお電話で詳細お問い合わせください♪

【文責:宗次ホール企画担当 廣田 政子(ひろた まさこ)】

“サイケデリックで斬新！これまでのチェンバロ演奏を打ち破る新しい解釈。知性や鋭敏な様式感だけでは、これだけの演奏はできるまい” (ワーナー・クラシックス)

“バロックン・ロール！準備は良いか？”
(インディペンデント紙)

ジャン・ロンドー チェンバロ

4月11日(火)18:45開演 4,000円(学生2,400円)【指定】



ピンピンに逆立てた髪に、パリ国立高等音楽院で研鑽を積んだ腕前。1991年生まれ、2012年のブルージュ国際古楽コンクール・チェンバロ部門1位を受賞したジャン・ロンドーはまさにチェンバロを現代の“イケてる”楽器に蘇らせるという使命を持った若き天才。待望の初来

日です！

17世紀の宮廷で活躍した楽器、チェンバロ。(英語では、ハープシコードと呼びます) J. S. バッハもチェンバロの為の素晴らしい作品をいくつか手掛けましたが、ピアノが主流になってからは、次第に過去の楽器に。君主制のシンボルとして考えられていたこの楽器は、フランス革命の時代には窓から投げ捨てられたり、焼かれたりもしました。

「この楽器に対する僕の愛情を皆とシェアして、若い世代にインスピレーションを与えたい。この楽器を自分も弾いてみたい！と思わせたい。」という彼の思いは、その彼の普段着の姿である“クラシックらしくない”髪型にも表れています。そして、ハープシコードに注目を集める為には、ポップスのCD同様、目を惹くCDジャケットのデザインにも気は抜かない。そして、「チェンバロは、

“アンティークな楽器”である必要はない。一つの音楽の様式であることは間違いないけれど、グルーヴィーな要素も多いんだよ。ビートルズやローリング・ストーンズも演奏した位なんだから！もちろん巨大なコンサートホールで響き渡る壮大な音ではないけれど、バロック音楽は本当に激しく感情的なんだから！」と仰います。

6歳の時にラジオで偶然耳にしたチェンバロの音に耳を奪われたロンドーさん。その音色の繊細さ、デリケートさに一瞬にして恋に落ち、一体どんな楽器なのかも知らぬまま、両親に「この音をどうしても出したい！」と懇願したのがはじまり。チェンバロの為の作品は楽譜の中でも即興的に演奏するよう指示されている箇所が多いのですが、その点がジャズの即興演奏とも共通しているため、ジャズ・ピアニストとしての活動も楽しくてたまらないとお話されます。ちなみに作曲も手掛けます。「今の時代、音楽は全て“ゴール”をもって書かれている。これは決して良いアプローチではないよ。先の目標や結果だけを気にしすぎるがあまり、今自分がいる“現在”を見失ってしまう。」その演奏スタイルもファッションも、全てロンドーさんらしい思想に基づいてのもの。音楽と並行して哲学を学ばれていたことも関係あるのかも…。

ぜひ、YouTubeで彼の演奏を聴いてみてください！激しい程に熱い演奏とお洒落な画。「4分の間に、見ている人の心を掴む、ビデオじゃないといけないからね。」と話すロンドーさんの言葉通り心をわしづかみにされます。

古楽器の演奏会にしては珍しく、本公演のチケットは売れ行き好調。良いお席はお早めに！！

「音楽の楽しさや音楽の喜びを演奏者が持たない限り、その舞台は本当につまらないものになるのです。」
(本人インタビューより)

～名実共にチェコを代表するチェリスト～

ミハル・カニユカ チェロ / 三輪 郁 ピアノ

4月17日(月)18:45開演 3,500円(学生2,100円)【指定】



左の写真は、2015年6月の公演で、宗次代表とのショット！カニユカさんは、これまでに10回来演された、宗次ホール最多出演の海外アーティストなのです。今回も、また三輪さんとの息の合った演奏が楽しみ！「三輪さんとは日本だけでなく、ヨーロッパのステージで

も何度か共演させて頂きましたが、とても心地よく、プロとしての共同作業を行うことが出来ました。私たちは友人としてお互いを理解し合っていますが、このことは共演するにおいて、とても重要なこと。彼女は技術的な完璧さはもちろん、創造的で音楽的に刺激し合えるパートナー。」と仰います。

チェロを「木の女房」と呼ぶカニユカさん。ホンモノの奥様、パヴリナさんよりも共に長い時間を過ごすこともあるからだそうで、ツアーに出た時なんかは正にこの「木の奥様」とずっと二人きり。楽器を選ぶには、自分が望むような美しい音が出るかだけでなく、手触りや、もっと単純な…共に生活できるかどうかという相性を見ることが大切だそうですが、元々弾いていたチェロは1710年製の楽器。「何せ300歳だけに、相手をするのに少し疲れてしまった」らしく、新しく友人になったフランス人楽器制作家が作ってくれたチェロを今は愛奏されています。

「音を楽しむ」と書く日本語の“音楽”、すごく良い言葉ですね。まさにそういうことなんです。音楽をする上で“主”と“副”があるとすれば、“主”は楽しむこと、“副”が演奏技術をチェックすること。私もコンサートを聴きに行きますが、そこで何か起こったとしても許すことができますし、コンピューターではないから完全なものを求めて聴きに行っているわけではないのです。音楽の楽しさとか音楽出来る喜びを演奏者が持たない限りその舞台は本当につまらないものになるのです。」“その音程をもう少し高く!”とか、つつい気にしてしまうけれど、やはり最終的に目指すところはやはり“音を楽しむ”ことに尽きます。時々私も忘れてしまうんですけどね」と笑いながらお話をされます。

世界では常に色々なことが起こっており、天災を含め私たちはいつ何時どんな災害に見舞われるかわかりません。しかし、「家族と居る時であれ演奏している時であれ、自分の周りの人が持っている“気”が気持ちよくて暖かいものであれば、そういう時に幸せを感じる。ちょっとしたことや当たり前のことでも小さな、幸せな瞬間を大事にしたい。ストレスさえも喜んで捉えたい。」と話すカニユカさんのあたたかいお人柄が伝わる演奏会が期待されます。(引用元:チェロカフェ Cello-Cafe.com)

「若い時には若い時にしかできない演奏がある。テクニックが発揮できる内はそういう演奏をしたい!」
(本人インタビューより)

広瀬 悦子 ピアノ

4月23日(日)14:00開演 3,500円(学生2,100円)【指定】

「鍵盤の魔術師」と呼ばれ、演奏に完璧を求めるがあまり、これまでも数々の共演オファーを断り続けてきた世界的ピアニスト、シプリアン・カツァリスが2台ピアノのパートナーとして選んだのが、広瀬さん。彼女の演奏を聴いて、「説得力を感じ、心から感銘を受けた。ぶつかり合っ



て音楽を創ってみよう!」と言ってくれたそう。「カツァリスさんは、普段はにこやかですがピアノのこととなると妥協を許しません。さらに私も主張があるほうなので、かなりぶつかり合いました(笑)」しかしながらお互い納得がいくまでやり、様々な歌い方が新しく生まれる瞬間は、やはり幸せを感じたと仰います。ラ・フォル・ジュルネ(音楽祭)の仕掛人ルネ・マルタンが、コロムビアから出ていた広瀬さんのCDを知って惚れこみ、生音を一音も聴くことなく、同音楽祭への起用を即決。「若い頃には若いときにしかできない演奏があるので、ヴィルトゥオーシティやテクニックが発揮できるうちはそういう演奏をしたいし、歳をとったら、すごくシンプルなんだけど深みがある、本当に魂からでてくる率直な音楽を。銜い(てらい)とか表面的なものでなく、内面から滲み出てくるような演奏ができるピアニストになればいいなと思います。」とお話されます。

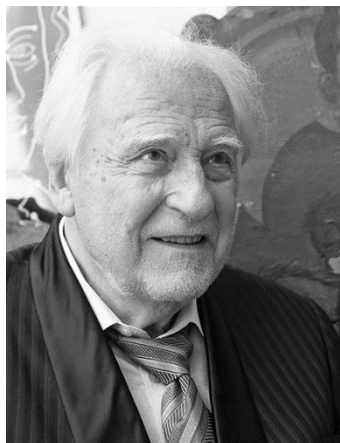
益々今後の活躍が期待されるピアニストです。

「偉大な作曲家の孤独に分け入り、大いなる共感と温かいまなざしをもって描きだす」

(ピアニスト・文筆家 青柳いづみこ)

イェルク・デームス ピアノ

5月3日(水・祝)18:00開演 4,500円(学生2,700円)【指定】



天才肌のグルダ、鍵盤楽器の研究者でもあった学者肌のスコダと共に「ウィーン三羽鳥」と呼ばれ、そのしなやかで抒情的な演奏で世界的に活躍し続けてきたデームス氏。ベートーヴェン最後のソナタOp. 111他、その名演が録音に残されているフランク:前奏曲、コラールとフーガ等、素晴らしいプログラミングで4度目の来演です。御年88歳の大巨匠は音楽への探究心を失うことなく、むしろ『いっそう研ぎ澄まされた凄まじいまでの集中力で聴衆を圧倒、多彩なステージで私達を魅了する。(ぶらあば)』この方の凄さは、言うまでもないでしょう。貴重な公演をお聴き逃しなく!

チケットのご予約・お問い合わせは
宗次ホールチケットセンターへ
☎ 052-265-1718(10時~18時)
お気軽にお電話ください!